

(川辺郡知覧町永里石坂上)

位置と環境

市街地の東南約1kmの石坂を登りつめた地点で、旧知覧中学校敷地内である。盆地の南に広がるシラス台地の北縁にあたり、標高200mの小丘陵に立地する縄文時代早・前期の遺跡である。

調査の経緯

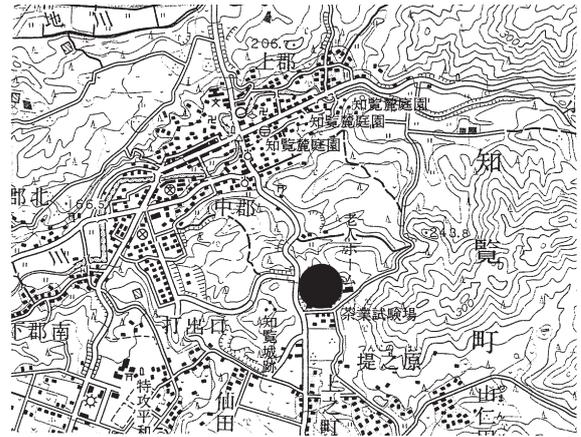
昭和18年(1943)に寺師見國が塞ノ神式土器を多量に出土する遺跡として記録している。昭和24年には旧知覧中学校敷地として削平された際に、一部が削りとられ遺跡であることが判明した。昭和28年7月、河口貞徳が発掘調査を行った。

遺構と遺物

地層は4層に分かれており、包含層の上層(3層)から塞ノ神Aa式土器、扁平な磨製石斧、打製石鏃および一片の平椀式土器を出土し、下層からは羽状貝殻条痕文を施した円筒形平底の新型式の土器と竪穴住居跡の一部を検出した。この土器は遺跡名をとって「石坂式土器」と命名したが、上層と下層の境目で山形押型文土器が出土したので、石坂式土器は早期に属することが明らかになり、その後つぎに発見された貝殻施文の円筒形平底土器群においても、その初頭を飾る土器型式であることも判明してきた。

塞ノ神式土器の型式名は昭和8年に木村幹夫によってあたえられたが、器形の全容が判明したのはこの石坂上遺跡である。

ここでは、完形土器のほかに塞ノ神式Aa式に共伴して土製の耳栓2個が発見された。ともに大型で、いずれも径約5cmあり、施文した上に一個は丹塗りしている。耳栓は縄文時代中期以降に、主として東日本に分布を示すもので、この例は飛び離れて古く、かつ孤立した分布を示した。しかし、近年、国分市上野原遺跡や福山町城ヶ尾遺跡など各地の早期の遺跡で出土例が増加しており、その特殊性が注目されている。近くでは枕崎市別府にも出土例がある。



第1図 石坂上遺跡の位置

特徴

縄文時代早期の「石坂式土器」の標式遺跡である。

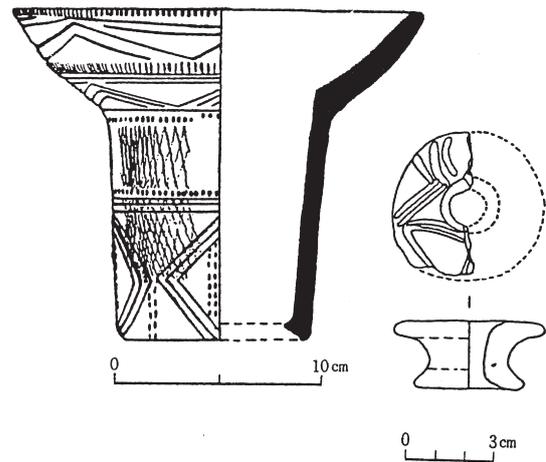
資料の所在

出土遺物は、河口貞徳宅に保管されている。

参考文献

河口貞徳1955「南九州出土の条痕土器—吉田村及び知覧町遺跡」『石器時代』第1号 石器時代文化研究会

(河口貞徳)



第2図 塞ノ神Aa式土器と耳栓